

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	(株式会社)ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー(1号館)		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2171800218-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気と建物の中で、利用者様中心の楽しい生活を送れる場の提供と、職員との信頼関係を高めつつ、思いや意思を受け入れ、気兼ねなく日々を過ごして頂くように支援する。笑顔・ゆっくり・傾聴・共感・情報公開の5大理念の実践。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、できるだけ低料金で、利用しやすくをモットーに、料金設定をしている。管理者は、職員が働きやすいように職場環境を整備している。優良社員制度を設け、研修受講や資格取得を支援し、サービスの質の向上につなげている。また、食事会や日帰り旅行を実施するなど、福利厚生も充実している。管理者、職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、笑顔で寄り添い、信頼関係を築きながら、安心して心豊かな暮らしができるよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1号館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の業務の中で意識づけして全ての職員に熟知してもらっています。	理念は「笑顔」「ゆっくり」「傾聴」などの5項目があり、玄関の目につく場所に掲示し、職員会議でその意義を確認している。利用者が、家族や地域の人たちと、日々関わりながら、笑顔でゆっくりと、思いに添った暮らしができるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周辺に民家が少なく挨拶程度に留まっていますが、運営者が町内の活動に参加して付き合いを大事にしています。	自治会員として、総会や草刈り等に参加をしている。地域の祭りに招待されたり、花火大会、花見会などの事業所の行事に、参加を呼びかけるなどして、地域との付き合いがある。各種ボランティアとの交流も継続をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議で、ご家族様、民生委員、市役所の方々に情報の発信や収集を、お願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表の方からの苦情や提案・要望など真摯に受け止め、解決もしくはアイデアなどに取り入れています。	会議は、隔月の日曜日に行い、行政や多数の家族が参加をし、事業所の現状や外部評価の結果を報告している。調理担当者が休みの日は、高齢者向けの宅配弁当の利用し、介護に専念してはどうかとの提案があり、その案を早速、サービスの向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネージャーや管理者が、月に2~3回程度市役所介護保険課や包括支援センターに出向き情報交換を行っています。	市の担当者には、運営状況や介護事故等を速やかに報告し、助言を得ている。市からの介護相談員の受け入れも継続しており、地域包括支援センターとも親密な協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの講習や研修に極力参加してスタッフ全員に周知徹底し実践している。玄関の施錠も夜間帯以外は、行わないようにしています。	職員は、身体拘束や精神的な抑制禁止事項について、研修会で学び、認識し、伝達講習会も行っている。夜間帯の転倒防止対策として、適所への手すり設置やセンサーマットで対応し、改善につなげている。日中は、玄関の鍵をかけず、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習などに会社より参加して、講習終了者がほかのスタッフに理解を広めています。		

岐阜 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では、一部のスタッフだけに限られているが、必要性のある利用者には活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に重要事項説明書と合わせて十分説明し納得して頂いた上で契約書を交わすように心掛けています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置と苦情相談窓口を設けています。玄関口には苦情箱を設置して対応しています。	家族からは、受診結果の報告忘れや電話連絡の不備などで意見がある。連絡ノートの見直し、再確認を徹底し、連絡・報告もれを防ぎ、改善している。利用者からの要望、苦情には、管理者と職員間で話し合い、満足できるように対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議とユニット会議を実施し職員の不安や不満、改善点、提案事項などを話し合い運営に反映をさせています。	管理者は、毎月の職員会議で、福利厚生の実、資格取得など、意見や要望を聴いている。人間関係の悩みは、個別に聴く機会を設け、運営や働きやすい職場づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	優良社員制度を設け会社から優良と認められれば昇給につながります。また、年に一度慰安旅行を実施し福利厚生面でも少しずつ向上させております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の意向で研修や講習での費用は、全面的に会社が負担し積極的に参加し一人一人のスキルを高めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や病院の連携会の勉強会に出席した際に交流や意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークなどに出向いて直接、本人やご家族の方に希望・要望・趣味などを傾聴し今後の支援に反映させています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から入所の申し込みの時点で不安な事や要望または利用者の状況など把握に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとも連携をとりながら入所に関してお試しの利用などで見極めを図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様の尊厳を重んじて人生においての先輩として尊び、経験にて培われた知識を学びえる関係をきずいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年恒例となりつつあるホームの行事で花見・花火大会・秋祭り・クリスマス会などにご家族の方々にも参加を呼びかけております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の利用者様に限られているのが現状です。年齢を召された方は、ADLの低下により困難な場合もあります。	家族や親戚と一緒に、行きつけの美容院へ出かけたり、知人が訪れ、居室でゆっくり過ごすこともある。家族には、洋服や孫の写真持参を依頼し、関係が途切れないようにしている。訪問美容師や介護相談員とも、馴染みである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームの居間にて食卓テーブルの席は、利用者様同士気の合う方に座って頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サマリーや情報提供書などを転居先の関係者に提供して関係を引き継いでおります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り利用者様の個性を尊重し個別のケアに努めケアプランも希望に添えるようにしております。	職員は、一人ひとりにゆっくりと寄り添い、話を聴いている。困難な人は、表情から察するよう努め、好きなこと、悩みなどを聴き、その人の意向を尊重して、思いが叶うように、また、その人らしい暮らし方となるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の方より生活歴・既往歴など詳しく聞き、介護サマリー・看護サマリーなどを参考にしサービスに活かしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全てのスタッフが、毎日の介護記録や体調チェック表に目を通し体調の変化や介護へのサービスに繋がるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーとスタッフの間で利用者様やご家族の要望などを話し合い、看護師・主治医の意見も聞きながら作成しております。	介護計画は、介護支援専門員が、職員の意見や介護記録を基に作成し、本人・家族からも意見や要望を聴いている。利用者の状態に応じ、必要があれば見直し、より良い暮らしができるように作成をしている。	介護計画作成は、家族参加型のサービス担当者会議を開催し、多くの意見や要望が反映できることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の気が付いた事や出来事などを事細かく記録しスタッフ間で共有しながら見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している有料老人ホームなどと連携を取りながら柔軟に対応しております。		

岐阜 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではごく一部の利用者様に限られていますが、月に一度相談員さん2名が来所して頂き話し相手や相談相手として支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協位クリニックの主治医に月に2回の往診をお願いし、健康管理と薬の処方を行い、認定に必要な意見書を記入などの支援をしています。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望で、全員が協力医とし、月に2回の往診がある。医師には、本人の情報を提供し、受診の結果を家族に伝えている。専門医への受診は職員が行い、緊急時は、総合病院へ入院ができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様が急な異常が見られた場合は、昼夜を問わず看護師に連絡をとり指示を受け対応に当たっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	総合病院などの場合は相談員や担当看護師と連携を密にとり早期退院につながる様努めております。また、直接本人に面接し状態を把握する事もあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとご家族様とターミナルケアの契約を交わした場合に限り終末期を住み慣れたホームで最後を送られるように支援しております。	重度化や終末期の方針は、契約時に説明して同意を得ている。状態の変化に合わせ、協力医や家族と話し合い、食べられなくなる前に、他施設への移行を支援している。看取りの希望には、一定の条件の下で対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急の研修に参加し全スタッフに周知徹底させております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回全施設にて避難訓練を実施しています。また、積極的に防火管理者研修にも参加しております。	災害訓練は、消防署立ち合いの下、昼夜を想定した避難訓練を実施している。防火管理者を中心に、役割分担や的確な伝達体制をとり、災害対応力を高めている。備蓄は、3日分があるが、地域との協力体制が、課題となっている。	地域の協力体制のあり方は、運営推進会議でも検討している。地域防災訓練への職員参加と、連絡網を整備し、地域関係者との組織化に期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同姓介助が勤務のシフトの関係上、困難であるため特に入浴・トイレ介助の時は、言葉にて声かけをし異性介助に不安がないよう努めております。	常に、利用者を人生の先輩として尊敬し、経験で培われた知識を学ぶよう心がけている。男性職員が多いため、入浴や排泄の介助は、利用者の羞恥心に配慮し、自尊心を傷つけない言葉かけや対応を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の業務の中で意識づけして全ての職員に周知しています。暮らしの会話の中で利用者様の希望・要望とか傾聴し出来る範囲で支援するよう職員全員で努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	シフトや時間の関係上、希望に添えない場合もあるが出来る限り利用者様の立場に立って支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を最優先にし、必要な物は購入したり、またはご家族にも依頼しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の好みを把握し毎日の献立作成に活かしています。職員と一緒に準備、片付けに関してはADLの低下などにより困難の場合もあります。	調理専門員が、利用者の好みを把握し、家庭的な味付けで、食欲を満たし、全員が完食している。食事中は、笑顔で会話をし、ゆっくりと満足感を味わい、食後は、片付けやテーブル拭きを手伝う利用者もある。	介護支援専門員が、月に1回、検食することが達成された。更には、職員が毎回交代で、利用者と食事を共にし、美味しさを楽しさを共有することに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月実施の体重測定や毎日の介護記録を参考にし食べる量・栄養バランスを考えています。また、水分摂取には特に気をつけ、三食には必ず果物を一品提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に対して朝、夕食後には必ず行っています。また義歯の方は、入れ歯洗浄剤で一晩浸け置き洗いをしています。		

岐阜 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録などで排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導や、ポータブルトイレで出来るように心がけています。	個々の排泄チェック表を基に、状態にも気を配り、こまめな声かけと誘導で、排泄の自立を支援している。おむつ使用者が、リハビリにより、歩行可能となり、安心パンツに変更して、トイレでの排泄ができるようになった利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の個人記録をチェックし、水分や果物などの提供や簡単な体操を働きかけている。また主治医の先生や看護師との相談、連携により予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、タイミングに合わせるのは困難なのが現状であるが、夜間帯以外は、いつでも対応できるようにしている。	入浴の回数や時間帯は、その人の希望に添った支援をしている。重度者用に、リフトを設置しているが、男性職員が、回転バスボードを使い、安全で安心な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間でも足の浮腫のひどい利用者は休憩できる様自室で横になるよう主治医に相談し眠剤を服用してもらっている。夜間の居室の空調にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報やお薬説明シートで職員全員に周知し、症状の変化に関しては、月2回の往診時に主治医に報告して指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員は難しいが簡単な作業など手伝っていただいている。趣味や得意な事をレクに取り入れている。月に一度は外出レク予定。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物に出かけている。また外出レクや、利用者様の誕生日には外食するようにしている。	周辺は緑が多く、日常的に、敷地内での外気浴や、近くの公園やグラウンドへ散歩に出かけている。月に1度は、全員で外出する日を設け、道の駅や買い物、外食などへ出かけている。自宅や墓参りへは、家族の協力を得ている。	

岐阜 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者様は個人で管理。できない利用者様の買い物は職員が代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人から要望がある場合は行えるように対応しているが習慣的えはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに四季の草花など飾って季節感を取り入れている。共用スペースなどには、消臭剤や芳香剤を使用している。	共有空間は、分担して清掃を行い、隅々まで、清潔が保たれている。さらに、温度調整や自然換気、防臭対策を実施し、不快感がないように徹底している。季節の草花や作品を飾り、手作りの足台を置くなどして、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルの席など気の合う者同士が座れるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得るよう働きかけ家具や使い慣れた私物などは活かして。家具の配等、利用者様の要望があれば対応しています。	家族の協力を得て、持ち込んだテレビや椅子、小物類は、使いやすく、見やすいように配置をしている。孫の写真や手作りの作品を飾り、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり設置等、転倒防止に配慮しながら本人のADLに合った空間作りに努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー(2号館)		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成27年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	適いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2号館)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の仕事の中で介護職員としての意識を持ち、全職員に周知している。新人職員には教育している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周りに民家が少なく工場があるため、挨拶程度にとどまっているが、運営者が町内や地域の活動に参加して付き合いを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議で、家族の代表や、民生委員の方々に情報の発信や収集をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表の方からの苦情、提案、要望など真撃に受け止め、処理や解決、もしくは、アイデアなどに取り入れている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員や管理者が、月に数回、市役所介護課に出向き情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの講習や研修に積極的に参加し、職員全員にて徹底し、実践している。玄関の施錠も夜間以外は行わない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	講習に参加して講習終了した者が他の職員に理解を広めている。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状は一部の社員だけに限られているが、必要性のある利用者には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、重要事項説明書と合わせて充分説明し、納得していただいた上で契約書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会の設置と苦情相談窓口を設けている玄関入り口には、苦情箱を設置して対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の管理者会議とユニット会議を行い、職員の不安や不満、改善点、提案事項など話し合い運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	優良社員制度を作り、会社から優良と認められれば給与のアップに繋がる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の意向で研修や講習に費用は会社負担で積極的に参加し、個々の介護技術向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や透析の勉強会に出席した際に交流や意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にインテークなどに出向いて直接、本人やご家族に希望や要望、趣味、嗜好など聞き、今後の支援に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの入所の申し込みの段階で不安な事、要望、利用者の状況など把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとも連携をとりながら、入所に関してお試しの利用などで見極めを図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、個人の尊厳を重んじ、人生の先輩として敬い、昔の知恵を授かったりして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年中行事である花見や花火大会、二ヶ月に一度の推進会議に家族にも積極的に参加を促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	一部の利用者にかぎられているのが現状である。また身体機能の低下により、困難な場合もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間の食卓テーブルは、気の合う者同士座れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サマリーや情報提供書など移られる所の関係者に送付したり電話などで情報のやりとりを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り利用者の意見を尊重し、個別ケアに努めケアプランも希望に添えるように検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から、生活歴や、既往歴など詳しく聞き、サービス情報提供書などを参考にしながらサービスに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が日々の介護記録や体調チェック表に目を通し、体調の変化や介護へのヒントになるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の要望などを話し合い、看護師や主治医の意見も取り入れる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に気付いたことや、発見など事細かに記録し職員同士共有しながら行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している有料老人ホームと連携しながら入れ替えなども検討している。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状は一部の社員だけに限られているが、必要性のある利用者には活用できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院の主治医に月2回の往診をお願いし、健康管理と薬の処方を行い、認定に必要な主治医の意見書記入などの支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に何らかの異常が見られる場合は、昼夜に関わらず、看護師に連絡を取り、指示を仰ぎ対応にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	総合病院などの場合はケースワーカーや担当看護師と連絡を密にとる。また本人に面会し状態などを把握する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームと家族の代表とでターミナルケアの契約を交わし十分納得して頂いたうえで終末期を住み慣れたホームで送れるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急の講習に参加し、他の職員にも応急手当などを教えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を業者立会いの下で行っている。また防火管理者研修にも会社から積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同姓介助を励行しているが、シフトの関係上困難な場合もある。主に入浴やトイレ介助には言葉かけをし、異性介助に不安がないようにつとめている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の会話の中で利用者の希望、要望などを傾聴し、出来る範囲で取り入れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えない事もありますが、利用者の身になって対応、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を最優先に考慮し必要なものは購入したり、ご家族にも依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個人個人の好物や嫌いな物を把握して、違う食材と代えたり工夫して対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月実施の体重測定や、毎日の介護記録を参考にしながら、食事量、栄養バランスを考えている。水分摂取には十分気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを朝と夕食後に行っている。義歯の方は、入れ歯洗浄剤で一晩、付け置き洗いをしている。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録、夜勤日誌などで排泄パターンをそれぞれに把握して、定期的にトイレ誘導を行い、失敗が減るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録に基づきチェックし、水分や果物の提供や簡単な体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人個人の希望、タイミングに合わせるのは困難なのが現状である。週3回の入浴で曜日には、こだわらず入っていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の時間帯でも、足の浮腫みの酷いかたなどは、自室で横になってもらっている。また安心して眠れるように医師に相談し、眠剤を服用してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報や、お薬説明シートで職員全員に周知し、病状の変化に関しては、主治医に相談して指示をうけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員は難しいが、簡単な作業は手伝っていただいている。趣味や、得意なことをレクリエーションに取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや、買い物に出かけているが、一部の利用者に限られている。		

岐阜県 グループホーム ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる利用者は、個人などで管理している。出来ない方は職員が代行で購入などしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望が強い方や、利用者本人からの要望があるときは、行えるように対応している。ご家族の了解がとれている場合に限る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食卓テーブルに四季の草花など飾り、季節感をだしている。共用スペースなどには、消臭剤や芳香剤を使っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席など気の合う者同士が座れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得るようお願いし、家具や写真、使い慣れた私物などを活かしている。居室のレイアウトは利用者の希望を第一に考慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置など、転倒防止に配慮しながら、ご本人のADLに合った空間作りに努めている。		